

第198回 令和8年3月19日(木)

さて本日は終業式ですが、切りが良いので 200 回までは書こうかと思っています。充実した春休みを、良き新年度をお迎えください。

「カタカナ言葉について」

もともと外来語でありながら日本語の一部として定着しており、広く認識されている言葉がある一方で、濫用されてわかりにくいカタカナ言葉もあります。

通用している言葉としては「インターネット」こちらは日本語に適した言葉がないといえます。コンピューターやデータも同様。イベントやリーダー、ボランティア、スマホなどもそうですね。メリットは多くの場面で認識されやすく、日本語に置き換えた場合に表現力が損なわれることがあり、使用が適切とされます。利点といういい意味だけではなくなることもありますよね。

反対に濫用されている一部のカタカナ言葉は、専門分野や新しい概念で使用されていますが、一般的な日本語話者には十分に理解されていないまま使われていることがあります。過度な使用により、コミュニケーションがかえって混乱することもあるため注意が必要です。

例えば「コンプライアンス」は「法令遵守」と置き換えられる場合も多く、日本語で表記した方が分かりやすい場面もあります。パラダイム＝「枠組み」、アジェンダ＝「議題」エビデンス＝「証拠」や「根拠」、ソリューション＝「解決策」です。

コミットは「約束する」や「責任を持つ」という表現に置き換え可能です。リスクヘッジは「リスクを避ける」で十分に意味が伝わります。

サステイナブル（「持続可能な」）、バリュー（「価値」）などは流行している言葉です。議題をアジェンダと言ったり、合意形成をコンセンサスと言ったりすることもあります。ブレストは「ブレインストーミング」の略で、自由にアイデアを出し合うことです。ペンディングは「保留」または「未決定」。フィードバックは意見に対して「返答や評価」を与えること。

KPIの意味は Key Performance Indicator（重要業績評価指標）で、目標達成度を測る指標です。よく耳にするPDCAは「Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Act（改善）」のサイクルのこと。ロジックは「論理」や「合理的な根拠」という意味です。

市場をマーケット、目標をターゲット、人材資源や物資をリソース、作業や業務の単位をタスク、主導権をイニシアティブ、計画や仕組みをスキーム、進捗の重要な節目や目標をマイルストーンと言ったりします。

ビジネス現場ではよく使われますが、あまり多用するのめどうかと思います。わからない人は周りに聞きにくいですし、TPOを考えて使ってみてください。